

## 山形県水資源保全総合計画検討委員会（第2回）における主な意見

日時：平成25年7月9日（火）13:30～  
場所：山形県自治会館 401会議室

- 水資源という枠組みで計画を策定するのであれば、節水や森づくりの県民運動、県内4地域をつなぐ最上川を中心とした活動など、県民総参加による独自性ある計画としてはどうか。
- 森林計画、環境計画、環境教育行動計画など、既に策定されている計画と重複する部分があるなかであえて水資源の総合計画を策定するのだから、これらを総合する計画と位置付けるくらいの意気込みがあっているのでは。
- どこが何をやるのか、実施主体がよくわからない。
- 資料1頁から3頁までの「(1)水資源の適正な利用及び保全のための施策」は、主体毎の記載だったり対象毎の記載だったりと分かりにくい。NPO、行政なども含め、主体毎など分かりやすい構成に整理してはどうか。
- 資料1頁の「2基本的な考え方」には森林等の水源涵養機能の維持のみが例示されているが、本計画の内容を踏まえれば、これ以外の取組みについても記載すべきではないか。
- 遊佐町で条例を制定したが、地域の人々の意識がなければせっかくの条例も役に立たないと思う。県民のパワーを引き出すには本計画による取組みを通して県民の理解を高めていく必要がある。
- 自分が所有する山林がどこなのか分からない人も多い。土地所有者の意識の高揚が重要である。
- 飲み水の元となる集水地域の保護が最も大事な施策ではないかと思う。そのためには、行政が一步進めることによって県民の力も進む。集水地域を行政が積極的に守ることが重要である。
- 施策は広範囲に及んでおり事務局の所管外の施策も多数含まれており、縦割りを乗り越えて取り組む必要がある。全国育樹祭等を契機とする周知とあるが、契機とするだけでなく積極的に活用した周知など、部局を超えて連携した取組みを進めていただきたい。
- 人づくりの部分は環境教育行動計画と重複している。既にしっかりした計画があるような部分についてはその計画に委ねて、本計画ではもっと絞った記載としてもよいのではないか。
- 県民意識を高める施策として環境教育は重要であり、人づくりを具体的にどのように推進するのかが大事。コアになって普及する人を中心に広めていくような取組みが必要ではないか。
- 生活するためには水が不可欠であり、山があればこそきれいな水があるということをひしひしと感じている。洗濯機が壊れ、手洗いで洗濯したところ何分の1かの水で間に合った。このような節水についてももっと子どもの頃から教えていく必要があると思う。